

## 会 議 議 事 録

1 会議名	令和6年度第1回食育推進会議
2 開催日時	令和6年6月28日（金曜日） 午後1時30分から午後3時30分
3 開催場所	さいわいプラザ 6階 大会議室
4 出席者名	<p>（食育推進会議委員）</p> <p>福居会長 中俣副会長 村山アドバイザー 青木委員 飯吉委員 小畑委員 酒井委員 佐藤委員 高田委員 田中委員 田山委員 名児耶委員 難波委員 星野委員</p> <p>（関係課）</p> <p>市民協働課 農水産政策課 環境業務課 学務課 子ども・子育て課 保育課</p> <p>（事務局）</p> <p>水島福祉保健部長 五百川健康増進課長 曾根健康増進課長補佐 田中係長 伊藤主査 古川主任 坪谷主任 健康増進課各担当係長 地域事務所・支所担当者</p>
5 欠席者名	（委員）野田委員 （関係課）学校教育課
6 議題	<p>（1）令和5年度第3次食育推進計画実施状況報告</p> <p>（2）第4次食育推進計画の概要説明</p> <p>（3）令和6年度食育推進事業について</p>
7 審議結果の概要	<p>（1）について 報告書冊子を用いて説明</p> <p>（2）について 資料1、1-2を用いて説明</p> <p>（3）について 資料2を用いて説明</p> <p>各議題ごとに意見を伺った。</p>

8 審議の内容	
司会	○開会
進行・会長	○議事 議題(1)について事務局から説明願う。
事務局	(事務局説明)
進行・会長	今の説明について意見等はあるか。 議題(1)について議事終了。 続いて、議題(2)について事務局から説明願う。
事務局	(事務局説明)
進行・会長	今の説明について意見等はあるか。
会長	資料1-2で、「家庭での推進」の食育推進事業の中に、赤字表記で学校での取組が含まれているが、「学校、保育園等での推進」との違いは何か。
事務局	学校や保育園等で配布された食育だよりなどを、家庭に持ち帰り、こどもから家庭へ普及するという意味で「家庭での推進」にも入れている。 (会議資料として配布した令和5年度第3次食育推進計画実施状況報告書を用いて)前期計画までは、この赤字部分は施策の体系に入っていなかった。第4次計画から追加したもの。
会長(進行)	学校での普段の食育の様子などについて、学校関係者の意見を伺う。
委員	こどもたちはとにかく給食が楽しみ。今日のメニューを聞くとほとんどの子が答えられるほど。 長岡市では1週間の給食で、5回中1回がパンまたは麺の日となっている。献立もパンや、麺、丼が出たり、様々な栄養を考えたメニューが給食で提供されている。それに伴って、学校現場では食育を月1回しっかりと行っている。年間計画にも入っている。 保護者からも「給食試食会をやってほしい」という声が出ている。本校(協野町小)では、6年間のうちに1回、1年生の時に給食試食会を実施

委員	<p>しており、保護者の方々も、給食に非常に興味を持ってくださっている。給食のレシピを教えてほしいという保護者もいて、こどもにも大切な食育だが、保護者も興味をもって色々なおたよりをみてくださるし、質問もしてくださる。</p> <p>本校（川口中）には、栄養教諭が配置されており、栄養教諭が食育の年間計画を作成し、計画的に実施している。具体的には、毎月1回の食育講話で、学年や学級を対象に、総合的な学習の時間を使い、毎月のトピックを絞り食育授業を行っている。</p> <p>「減塩うまみランチ」を給食で提供する際には、お昼の放送で、減塩の工夫や使っている食材、食べるとこんな効果があるなど、全校へ啓発している。</p> <p>また、委員会が中心となり、全校で決められた1週間の給食残量のチェックを行い、食品ロス削減に向けた取組も行っている。</p> <p>保護者との連携については、先ほどの説明でも「朝食を食べてこない」という生徒も多いということだが、本校でも83%程度で、朝食についてはご家庭の協力が必要であると考え、学習会等でご協力を仰いでいる。</p>
事務局	<p>補足として、文字だけではわかりづらいが、計画書33ページは保育園等での食育と高校での食育の様子の写真、35ページには学校での栄養教諭による食育授業の様子を掲載している。</p> <p>保育園等での食育講座では、パクパクノートといって、講座の内容を家庭と共有するノートがある。講座実施後、そのノートに園の先生が一言記入し、家庭へ持ち帰り、保護者からもメッセージなどを記入いただき、園と家庭を往復させるといった形で、家庭へも食育を波及させている。</p> <p>また、長岡市には今年度4月に施行された「ヘルシープラン21」という健康づくり計画があり、塩分摂取目標量を7gと定めている。長岡市民の現状は8gよりも高く、学校給食の減塩うまみランチ商品化において、こどもたちに人気の給食献立を販売することによって、家庭への波及効果を期待している。</p>
会長	<p>減塩うまみランチは販売中なのか。</p>
事務局	<p>スーパーマルイには当課作成のポスターを貼っていただいている。</p>

	<p>る。今年度は「鶏肉の梅ケチャソース」「切干大根のさっぱりあえ」の2つのメニューを6月の1か月間販売している。「鶏肉の梅ケチャソース」は大変好評で、販売延長も検討しているとのこと。</p> <p>販売の途中経過は、6月15日時点で、昨年度の6月1か月間の販売数と同等。</p>
会長（進行）	<p>すばらしい取組だが、販売につなげることにおいて、難しかったところや課題はあったか。</p>
事務局	<p>販売に協力してくださる企業が、(株)マルイ1社だが、我々は、市内に店舗がある企業すべてに説明した。やはり、大きな企業だと、長岡市だけで限定のメニューを販売することは難しく、(株)マルイの場合は、見附市に本社があり、工場も地元にあるということで、販売にご協力いただけた。</p> <p>ただ、他の企業も販売は難しいが、啓発ポスターであったりPR活動については協力いただけるとのこと。</p>
会長（進行）	<p>では、先ほども男性の働く世代への事業が弱かったという報告もあったが、働く世代への取組についてご意見はあるか。</p> <p>私は、以前に長岡市商工会議所の健康経営セミナーというところに参加した。参加者の皆さんは熱心に生活習慣病のお話を聞いていた。</p> <p>昨年度の実施状況報告書24ページに、働く世代への啓発事業として北越メタルへの講座が記載されているが、他にこういった事業の需要はあるか。</p>
事務局	<p>食育だけではなく、働く世代へのアプローチは難しい。当課の健康づくり講座は企業に対して募集をかけているが、申し込みが少ない。健康経営の部分でも力を入れていきたい。</p> <p>今年度4月に施行した「第3次ながおかヘルシープラン21」でも食塩摂取量や野菜摂取不足のほか、歩数が少ないことも課題である。</p> <p>現在、今年12月の導入に向けて、市独自の健康アプリを準備している。この健康アプリでは、様々な健康講座を紹介したり、講座に参加するとポイントが付いたりするほか、食育関連の啓発コンテンツも徐々に盛り込みながら、忙しい、働く世代に食育の取組が習慣化するよう、今後検討していく。</p>

会長（進行）	<p>健康経営企業にも認定制度があり、その認定条件に労働者への健康講座や研修を行うことが盛り込まれている。今後つながってけるとよい。</p> <p>他にご意見はあるか。</p> <p>議題（２）について議事終了。</p> <p>続いて、議題（３）について事務局から説明願う。</p>
事務局	（事務局説明）
関係課	（各関係課説明）
会長（進行）	<p>今の説明について意見等はあるか。</p> <p>市政だよりの学校給食献立紹介とは、どのくらいの枠で掲載されるのか。</p>
学務課	現在の打合せ段階では、１ページの半分くらいの予定であるが、担当の市広報・魅力発信課と検討中である。
会長（進行）	給食の紹介というのはおもしろい。減塩うまみランチの商品化も「学校給食」のメニューを商品化するという切り口で、単なる健康づくりだけではなく、「給食を食べたい」という働く世代に対して訴えていけるのではないかと感じる。市政だよりの献立紹介も働く世代へ、何か訴えるメッセージを一緒に付けることも効果的ではないかと思う。
委員	駅や会社などに掲示の依頼をしてはどうか。若い世代はQRコードもついているので興味のある人は見る。
委員	<p>私も減塩うまみランチには興味があり、食べてみたいが、近くにスーパーマルイもあるが、知らなかった。</p> <p>スーパーに掲示するだけでなく、別の方法でアピールするのもよい。例えば、市の公式LINEに流すと情報を上げられる。</p> <p>また、QRコードからレシピが見られるのはよい。商品のパッケージに、QRコードのシールも貼ると、買った人がすぐに情報を見ることができるので普及が広がるのではないか。</p>

事務局	<p>補足</p> <p>6月に市公式LINEにも掲載してはいるが、タイミングによっては、2回、3回とLINEで情報を流すことも検討する。</p> <p>販売場所には、紙のレシピも持ち帰っていただけるよう用意している。</p>
委員	<p>早く知れたら買いに行きたかった。今日これから買いに行きたい。もっと興味の引くPRをお願いしたい。</p>
事務局	<p>タイミングをみて、繰り返しPRすることも検討していく。</p>
会長（進行）	<p>他にご意見はあるか。</p>
委員	<p>料理教室がとてもいいと思うが、ほとんどが小学生以上を対象としている。小さな子は料理は難しいかもしれないが、畑で食材にふれるなど、食物の成り立ちなど体験できる講座があるとうれしい。保育園に通えばきっといろいろと講座などで体験できるのだと思うが。</p>
事務局	<p>6月15日にミライエ長岡で実施した講座では、シャカシャカおにぎりづくりを行い、小さな赤ちゃんを連れてご家族も参加され、楽しんでいた。</p> <p>農業体験についても、農水産政策課やJAの実施する体験講座があるので、そちらのお知らせなども確認いただきたい。</p>
委員	<p>食育月間での野菜摂取啓発POPは以前からやっているとのことだが、どのような効果があったか。</p>
事務局	<p>昨年度から2年目の事業。スーパーやコンビニに貼掲示してあり、なかなか効果が判別しにくい。ただ、自分自身もPOPを見て買って帰ろうと思い、目に見えないところで着実な効果が出ていると思う。粘りづくよく積み重ねていきたい。</p> <p>この事業もPDCAサイクルを回し、6月1か月間の掲示依頼期間が終わるので、企業のほうに、どのような反響があったかなどを確認したい。</p>

委員	<p>自分も食育に携わっているが、働く世代の人となかなか一緒に食事をしたり、地場野菜を選ぼうとか言ったことがない。一緒に農業をしても、お昼ごはんがカップラーメンを持って来ていたりする。</p> <p>コンビニに行ったときに、POPの言葉が「もう一品野菜を食べよう」だとやさしいので、「野菜食べたか」ぐらいの強い言葉だといいなと思って見ていた。</p>
委員	<p>買ってきてすぐに食べられる野菜はほとんどない。どう食べるとよい、などというアドバイスはあるか。</p>
委員	<p>ゆでる、レンジで温める、また生で食べられるものもあるので、そういう点からアピールすると食べやすいかと思う。</p>
会長（進行）	<p>特に男性は野菜はめんどうで食べないという人が多い。ぜひ野菜をたくさん食べていただきたい。</p> <p>他に、発言いただいていない委員の方からはいかがか。</p> <p>青木委員のほうから。</p>
委員	<p>ここまでの食育の取組をやっていたことに頭が下がる。</p> <p>働く側としてはなかなか伝わってきていないという印象。取組内容を見ると、学校給食のレシピであったりと、中心はこどもであり、こどもから家庭という範囲である。</p> <p>働く側は、なかなか健康まで意識がない。若いと健康や病気というところまで意識がいかないが、先々の予防という観点から何かアプローチできないものか。</p> <p>当社も今後、健康経営の認定を目指したいと思うが、なかなか余裕のある企業でないと、健康に向ける余力が出ないのではないかと思う。商工会議所の経営者へアプローチしていくと意識を変えられるのではないか。</p> <p>当社でも、今年3月に管理栄養士を講師とした研修会を実施したところ、社員から「もっと聞きたい」との声が上がった。意外に健康意識が高いという新しい発見であったので、企業へのアプローチができると思う。</p>
委員	<p>コミュニティセンターでは、比較的高齢者への取組が行われている。</p>

事務局	<p>て、新たな視点の若者世代への取組が抜け落ちていると思う。</p> <p>今回の若者世代への取組強化という点で具体策をお聞かせ願いたい。</p> <p>主に、デジタル媒体を活用した取組を考えている。</p> <p>昨年度、中止となった「時短メニュー料理講座」は、中止後、当課で、時短の献立の作り方を、説明テロップを入れて1分半程度の料理動画を作成した。他にも、かつお節と昆布の合わせ出汁の作り方の料理動画も作成した。</p> <p>この動画は、6月15日のミライエ長岡での食育イベントで流したところ、多くの方が興味を持ち、レシピが欲しいとの声があった。</p> <p>また、今後、食育事業の実施後アンケートに、どういった内容で、どんなやり方であれば講座に参加したくなるか、といった質問項目を加え、検討材料としたい。</p>
委員	<p>コミセンでもデジタル媒体を活用していきたいと思う。</p>
福居会長（進行）	<p>作成された動画は長岡市のY o u T u b eで見られるのか。</p>
事務局	<p>そのように準備する。</p>
委員	<p>食材を生産する側は、消費をしていただければありがたい。</p> <p>大阪の量販店のバイヤーが来社された際の話だが、今、世間では米が不足している。そんな中で、その量販店のスーパーは140店舗ほど展開しているが、米が売れないと総菜が売れない、ということで、スーパーを成り立たせるためには、まずは「米を売る」ということが創業当時のポリシーであった。</p> <p>計画書の中でも野菜の摂取量が落ちていて、米を食べないことも一因だと思う。いかに家庭で米を食べるかが、野菜摂取につながる。そういう意味では、こどもの頃からの食育が大切である。</p> <p>年齢を重ねると、こどもの頃食べたものを食べなくなり、自分でも料理しようと思う。</p>
委員	<p>食生活改善推進委員のことを紹介させていただきたい。</p> <p>活動内容は、県から依頼される健康づくり講座実施、長岡市から依頼事業、自分たちで研修する自主活動の3つ。</p>



<p>委員</p>	<p>今年度の長岡市委託事業は「食品ロス削減」の調理実習であり、各地区で市民の皆様へ広げている。</p> <p>その他、地区ごとに自主活動を行っていて、自分のところでは、防災時の食事をテーマにして研修をし、とても勉強になった。</p> <p>長岡市の食育は多彩なメニューで取り組んでいてすごいと思う。</p> <p>新潟県も食育事業として、自然に健康になれる「からだよろこぶデリ」を展開している。大手企業は独自のやり方で健康づくりに関連した取組を行っていて、協力していただくのは難しい。スーパーマルイの協力を得られることも地元企業という点で強みだと思う。きっと売れ行きも良いと思う。このようなことを各自で進めていただくことが一番だと思う。</p> <p>また、健康経営については、新潟県でも毎年、表彰という形を設けている。減塩への取組や健診を受けている、といった6つの項目のうちひとつでも取り組んでいれば表彰対象となる。しかし、産業保健師がいるなどの大きな企業が比較的取り組みやすいのかと思う。</p> <p>保健所のほうでは、50人未満の小さな企業を対象としているが、現在は労基署の協力を得ながら実態調査を予定しているところ。大きくPRすると同時に、長岡市のように地道な活動を継続していくことが大切だと感じる。</p> <p>その他、県では、男性へのアプローチ方法として、保育園に「お父さん参観日」を設定していただき、簡単な「食べ物のき・あか・みどり」の食育講座をやっていきたいと考えている。</p> <p>今後も市と協力しながら、地域住民の健康づくりを共に考えていきたいと思うので、よろしく願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>当園では、広大な畑があり、在籍児のおじいちゃんからの協力を得て、畑を耕し、苗を植え、育てている。花が咲いて、枯れて、実ができるという過程も見ることができ、恵まれていると感じる。</p> <p>収穫も毎年、様々な野菜が採れる。今週、ジャガイモが採れ、その日はじゃがバター、次の日は青のりポテトで食べた。こどもたちも苦手な野菜でも、自分たちが作ったものは喜んで食べる。給食で食べきれない分は、昨年度は「こども八百屋」を開き、保護者から持ち帰ってもらった。保護者からは、レシピを教えてほしいなどといった声が返ってきた。</p>

委員	<p>減塩うまみランチについては、保育課の栄養士から献立データが送られてくるので、玄関などに掲示したりしている。毎日の給食も、玄関にディスプレイしているので、保護者の中には写真を撮っていく人もおり、こどもが喜んで食べていたと伝えると、家でも作ってみたいとの声もある。家庭と情報共有していくことが大切だと感じた。</p> <p>POPの話に戻るが、以前何かの論文で、ある大学の学生がスーパーからの協力も得て、野菜摂取啓発POPを期間を決めて掲示した前後での売り上げ調査をした結果、POPを掲示した後に売り上げが伸びたという報告があったことを情報としてお伝えする。</p>
会長（進行）	<p>他にご意見はあるか。</p> <p>議題（3）について議事終了。</p> <p>最後に、この会議のアドバイザーである新潟県立大学の村山教授から全体をおしてご意見を願う。</p>
アドバイザー	<p>新たな視点での取組として3つ挙げられており、その観点から今年度の推進事業について大きく4つコメントさせていただく。</p> <p>1点目の長岡市の取組のすばらしい点、皆様からもご意見が出ていたが、学校給食を活用した「減塩うまみランチ」の様々な展開で、取組がつながっていることを感じる。</p> <p>給食をおして、保育園や学校でこどもたちに教育をしている、あるいは、市政だよりを使って市民全体に普及していると共に、一方で環境整備として、健康に良いと情報を伝えるだけでなく、販売する形で展開しているところである。県のヘルシーメニューもあるが、やはり、給食献立だとこどもの保護者も関心が高いことがポイント。</p> <p>もう一つのポイントは、給食は地場産野菜の使用という取組ともつながっていて、基本施策4「環境に配慮した食の循環の推進」の取組ともつながっている。</p> <p>よって、本日のご意見にもあるとおり、農業の課題と健康の課題は、米と野菜の摂取という点で共通だということが見えてきたので、地場産野菜の普及啓発と、学校給食をつなげ、減塩うまみランチもつながっていく展開ができるとよい。</p> <p>2点目のすばらしいと感じた点は、関係課や関係機関との協働が</p>

	<p>多いということである。議題3の報告でも学務課の事業が多い。これはほかのところではあまりないこと。関係課、関係機関との協力体制が強くなることで、食育の取組に広がりが出てきていると感じる。関係者だけでなく、行政と農家、学校、スーパーといった広がりも知ることができた。</p> <p>3点目のすばらしい点は、モニタリングを実施しているところである。令和5年度の報告書にもあるように、「何がどれだけ販売されたか」のようなアウトプット指標を取っている。何をどれだけやったら、これくらいの効果があったということは、評価をするときに非常に重要なのでぜひ続けてほしい。</p> <p>最後、今回の議事でも取組が少なかったとのコメントがあった、若い世代・働く世代に対しても、この減塩うまみランチを伝えていくことができないか。</p> <p>一つのルートとしては、この減塩うまみランチを大きな企業であれば職場の給食、宅配弁当を取っている職場であれば、宅配弁当のメニューに入れてもらう方法があるのではないか。</p> <p>50人未満の小さい事業所については、実態把握の中で、お昼ご飯はどうしているのか、どこで食べているのかということ併せて把握すると、入手したところへアプローチをつなげていける。</p> <p>二つ目のルートとしては、保育園児の父親へのアプローチという取組があるが、男性の育児推進というところも社会全体で進めているので、その流れにつなげるという方法がある。</p> <p>もう一つは、減塩うまみランチのチラシを、販売店のスーパーマーケットの近くの事業所に置いてもらえると売り上げがどうなったか、というエビデンスがあると面白いと思う。</p> <p>働く世代へ対する健康経営というところでは、研修会の魅力的なネーミングが重要であるが、「学校給食」というのはキーワードの一つとしてとらえてもよいと思う。以上</p> <p>会長 福祉保健部長 司会</p> <p>それでは、進行を事務局へお返しする。</p> <p>○挨拶</p> <p>○閉会</p>
--	--

9 会議資料	冊子資料：令和5年度第3次長岡市食育推進計画実施状況報告書 資料1：第4次長岡市食育推進計画について 資料1-2：第4次長岡市食育推進計画 施策の体系 資料2：令和6年度食育推進事業について
--------	--